

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年4月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100694
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホームひなげし
所在地 (電話番号)	群馬県高崎市高浜町1027-11 (電話) 027-340-3456
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県 前橋市 大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 22年 2月 22日

【情報提供票より】(22年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.3 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/ <u>単独</u>	新築/ <u>改築</u>
建物構造	木造 平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <u>(無)</u>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 60 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	6 名	女性	3 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊岡呼吸器内科クリニック 広神歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の男性比率が高く対応の難しさが伺えた。職歴が多彩であり、一人ひとりの自己主張に職員の適切で臨機応変な対応が求められる。利用者同士の関係調整等日常的に先を予測した危機管理が必要である。管理者・職員は適切なケアと敏感な支援の優先順位を共有しながら行っている。モニタリングに基づいたケアプランの共有がサービス提供に結びついており、利用者・家族に安心感を与えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町村との連携は改善され交流が図られている。同業者との交流を通じた向上では西部ブロック研修への参加や他グループホームとの交流があり改善されている。現状に即した介護計画の見直しでは毎月の評価、モニタリングにより、適切な見直しが行われている。重度化や終末期に向けた方針の共有では、「重度化対応・終末期ケア対応指針」が重要事項説明書に盛り込まれ改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員全員に自己評価の項目を問い、出された意見を取りまとめ作成した。職員からは玄関の鍵について、入浴支援、地域との関係などの意見が出された。今後の検討課題として捉えている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一度開催されている。家族全員に参加を呼びかけている。ホーム側から状況報告、介護保険制度の説明、スプリンクラーの設置、災害時の対応等が報告されている。「災害時マニュアル」を作成し地域住民の協力が得られる災害連絡網が出来た。またホームに面した道路にカーブミラーの設置が話し合わせ、カーブミラーが設置された。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>管理者は家族の面会時には出来るだけ意見の言い易い雰囲気をつくり、家族の意見を吸い上げたいと努力している。職員には家族との関係性を強めるために担当制を導入したところ、面会者の人数が増えてきている。家族から新聞のお悔やみ欄を見せなくて欲しいという意見が出て、お悔やみ欄を除いている。職員は出された意見を共有し、管理者は改善結果を家族に報告している。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事等に参加している。地域の人もホームの行事(AED講習、避難訓練)に参加し、災害時の地域住民の連絡網の作成に協力してくれている。散歩の時には挨拶等声を掛け合っている。地域ボランティアの人達の定期的な慰問がある。小学生の慰問、中学生の体験学習の受け入れを行っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で理念を作成している。玄関と事務所に掲示している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度の職員会議で理念を確認し合っている。入職時には管理者が説明している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いを大切にしている。廃品回収などにも協力し、地域の一員として活動している。介護相談員、中学生の体験学習も受け入れている。AEDの講習会・避難訓練には地域住民に呼びかけ参加してもらっている。地域の祭り、カラオケ大会、踊り、ボランティアの受け入れなど地域との関係を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解しており、職員全員で自己評価に取り組み、管理者がまとめあげた。玄関の鍵、入浴支援、地域との交流の項目に職員の意見が積極的に出ている。管理者は意見に対して改善できるところは改善したいと考えている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に一度行われている。「ひなげし便り」で家族に参加の呼びかけが行われている。会議には利用者家族、自治会長、民生委員、ボランティア代表などが参加している。ホームからは現況報告、行事、慰問などの報告がされている。その後情報交換を行い意見などの吸い上げを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人が窓口で一括して行っているがホーム側としてもケアマネジャーが解らない事などで電話をし、出来るだけ情報交換をしようと心がけている。小学生の慰問、中学生の体験学習の受け入れなど行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員には担当制がとられている。面会時に健康状態等の報告を行っている。担当制になってから面会が増えてきている。管理者は緊急時には電話でも家族に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族面会時には意見や要望の言い易い雰囲気を作り、家族の意見の吸い上げを行っている。担当制をとり家族と職員の関係の強化を試みている。家族から出された意見は職員に共有され、結果は家族に報告されている。新聞のお悔やみ欄を見せないで欲しいという家族の希望に対して、お悔やみ欄をはずして読んでもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動は最小限にしたいと思っている。常勤の異動が一人あったがパートの職員が常勤になり混乱は見られなかった。管理者は新規入職者に対して仕事に慣れるまで2週間くらい同じ職員の下で指導を行っている。夜勤も2回職員が付いて指導し、管理者が見極めて一人立ちさせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内研修を受けることが出来る。また法人外での研修も交代で参加している。実践者研修、認知症研修などに参加している。参加者は職員会議で報告を行い、職員間で共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。西部ブロックでの研修に参加している。地域のグループホームとの交流が行われている。他法人・他地域のグループホームとの交流も今後検討をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの場合や病院からの場合などその人に合わせた方法を検討している。家族が見学をして入居した事例やホームから出向いて面接を行い利用に結びついた例などがある。出来るだけ納得をしてもらい利用に結び付けている。また馴染みの関係を作りながら利用に結びつける努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	男性が多いグループホームなので仕事など一緒にしながら教えてもらったりしている。畑仕事では雑草のとり方など職員は教えてもらっている。毎日を笑顔でたくさん笑いながら過ごし共に生活する支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中から本人の意向を確認している。どこに行きたいか、何を食べたいか、何をしたいかなど本人から聞いている。管理者は担当職員から利用者の意向の報告を受けている。家族とは面会時に確認をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度開かれるカンファレンスの時に計画の検討を管理者、ケアマネジャー、職員が行っている。担当制による本人本位の計画が立てられている。家族への計画の説明は電話で行っている。家族了承印は職員が来訪時にもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度のカンファレンスで評価、モニタリングを基に見直しの検討がされ、随時見直しがされている。見直しの必要が無い場合でも3ヶ月毎に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院支援や買い物など柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週間に一度の協力医の往診と訪問歯科の受診も出来る。原則かかりつけ医は今までの医師となっている。希望により協力医に変更が出来る。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「重度化対応・終末期ケア対応指針」として入居時に説明されている。入居後も状況に応じての話し合いを行い、ホームとして入居者・家族の希望を取り入れた支援の方向が共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に会議の時などにプライバシーの確保について話をしている。排泄時の声掛け、ドアの開閉等具体的に指導している。職員は入職時法人との間に誓約書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの行動パターンを大切にして強制をしない支援が行われている。大まかな食事の時間は決められているが、レクリエーションや行事など利用者の意思を大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れたメニューが組まれている。誕生日には祝い膳が提供される。食事の下準備など利用者も参加して職員と一緒に食事をしている。肉料理の希望が多いので、野菜を多く摂取する工夫をしている。外食の希望も取っているが、回転すしは好評ではなかった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回月曜日と木曜日の午後が入浴日となっている。男性が多いので男性から先に入浴をしている。入浴を毎日行っていたが今は週2回になっている。家族と一緒に温泉に出かけている入居者もいる。	○	利用者が入浴をしたいときに入浴できる支援や、曜日や時間などにとらわれない支援を期待したい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割を持ち張り合いのある生活を支援している。清掃(モップ掛け、掃除機)、習字、塗り絵、フラダンスなど趣味と役割を持ってもらっている。楽しみや気晴らしとして誕生会、初詣、ビデオ、カラオケ慰問、歌などの支援がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外食、お花見など外に出る機会を作り支援している。以前地域行事に利用者数名が参加したがトラブルになり、現在はホームに来院してもらっている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかける事の弊害を理解している。家族から道路に面しているので鍵を掛けてほしいとの希望が出され施錠している。	○	開錠に向けての取り組みが職員でなされている。利用者に閉じ込められたという感じを与えない介護や、家族へは開錠の理解と説明等を併せてお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を行っている。1回は夜間を想定した訓練になっている。消防署、利用者、近隣の住民も参加している。初期消火、通報、避難訓練が行われている。地域住民との連絡網が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量の記録がされている。1日の水分目安は1000ccとなっている。水分量のトータル記録がされている。飲みたい時に飲める工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装ダンス、作品、塗り絵、人形など飾られている。出窓がありそこに花が飾られてる。家族写真などでその人の生活背景が継続されているように見受けられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く開放感がある。共用空間にはテーブル、椅子が配置され水槽には魚が飼われている。壁には作品、写真、ボランティアの写真など飾られている。		